

# 【英語】 <中学校 第1学年>

## 1 結果のポイント

- 「理解の能力の【聞くこと】」については、自然な口調で話された会話や英文を聞いて、会話の場面や話題の中心等の概要・要点を聞き取る力をみる問題の正答率がほぼ90%を上回っており力が十分身に付いている。他方、問いかけから相手の尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力は、十分身に付いているとはいえない。
- 「理解の能力の【読むこと】」については、いくつかの情報を整理して正しく読み取ったり、大まかな内容や大切な部分を読み取ったりする力をみる問題の正答率がほぼ70%を上回っており力が身に付いている。他方、会話の流れから話の展開を理解する力は十分でないため、前後関係から適切な表現を選択する問題の正答率は60%を下回っているものがある。
- 「表現の能力の【書くこと】」については、英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題の正答率がすべて70%を上回っており、ほぼ力が身に付いている。他方、一つの話題について、読み手を意識しながら、内容の事実関係や順序等を整理してまとまりのある英文を書く力は、十分身に付いているとはいえない。

## 2 結果の分析

### (1) 大まかな内容を聞き取る力をみる問題の例

<問題> **3** の2 (テープ問題)

マイケル先生が授業で家族紹介をしています。よく聞いて、次の問いに答えなさい。答えは、最も適切なものをア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。英文は2回くり返して言います。

(2) マイケル先生の弟について分かったことは何ですか。

(放送文) This is a picture of my family; my father, my mother, my brother, my two sisters and me. My brother Harry is a high school student. He likes music. He plays the guitar on Sunday. He plays basketball very well.

ア 趣味と通学方法 イ 趣味と勉強方法 ウ 趣味と好きな食べ物 エ 趣味と得意なスポーツ

<結果> **3** の2 (2) 正答率 94.3% (正答…エ)

<分析>

この問題は、自然な口調で話された英語を聞き、その場面で使われる表現や会話の展開から、大切な部分を聞き取る力をみるものである。本年度は短い会話だけでなく、**3** の2のように家族紹介の叙述文であっても高い正答率が得られ、**3** のすべての問題の正答率が、ほぼ90%を上回っている。これは、「どのような場面か」「何についての会話か」等の視点を提示して、場面や話題の中心を聞き取る指導や、「友達に自分の尊敬する人を紹介する」等の場面設定を大切にされた言語活動が継続的に行われている成果と考えられる。概要・要点を読み取る力についても、**5** の正答率が高いことから、昨年度同様、安定して身に付いているといえる。

### (2) 話の流れを読み取る力をみる問題の例

<問題> **6** の1

次の対話文は、日本人の中学生エミ(Emi)が、留学生のニック(Nick)と図書館で会ったときの会話です。対話文が自然な流れになるように、( )の中に入れるのに最も適切な英文はどれですか。

Emi : Hi, Nick. What are you looking for?

Nick : Hi, Emi. I'm looking for a soccer magazine.

Emi : ( ) I love Nakata.

Nick : Nakata? Does he play soccer very well?

Emi : Yes, he does.

ア He doesn't like soccer. イ Oh, I like soccer. ウ I'm a student. エ He is a nice man.

<結果> ⑥ の1 正答率 75.5% (正答…イ)

<分析>

⑥は、英文を読んで前後の文脈から欠落した部分の内容を推測する力をみる問題である。昨年度課題となったこの力をみる問題は、今年度は1問増やし3問出題したが、2問について昨年度より正答率の向上傾向がみられる。⑥の1は昨年度と類似した問題であるが、正答率は大きく向上している。I'm looking for a soccer magazine と I love Nakata.とのつながりから Emi が自分がサッカーに興味があると発話していると判断できたと考えられる。⑥には、正答率が60%を下回るものもあり、依然として課題ではあるが、場面や状況を理解し、会話の流れをつかみながら、登場人物の気持ちになって会話する活動等の充実が図られてきた成果と考えられる。

### (3) 言葉を正しく使う知識を問う問題の例

<問題> ⑦ の2

次の二人の会話が成立するように、( ) の中に入れるのに最も適切な英文をア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

2 Keiko : What time is it?  
Sam : Oh, it's seven ten.  
Keiko : ( ) Let's go home !

ア Really? イ Look. ウ It's easy. エ You're welcome.

<結果> ⑦ の2 正答率 76.3% (正答…ア)

<分析>

この問題は、会話でよく使われる英語表現の使い方を理解しているかをみるものである。⑦のすべての問題の正答率が、昨年度に引き続き70%を上回っていることから、日常会話において使用する簡単な英語表現についての知識は安定して身に付いているといえる。これは、毎時間の授業の始めに、つなぎ言葉を使いながらのペア対話等が継続的に指導されている成果と考えられる。ただ、同じ会話でも、言語形式によらない応答を求められる場面において、相手の意向を理解して適切に応答する力は、①の正答率が60%を下回っており、重要なコミュニケーション能力の一つとして今後一層充実させていく必要がある。

### (4) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> ⑧

あなたはカナダにいるペンフレンドに、友達の高木( Takashi )を写真入りで紹介することにしました。紹介したい話題を下の【話題】の中から一つだけ選び、相手にその内容が伝わるように、3文以上の英文で書きなさい。

ただし、最初の文は This is.... を書き出しとして始めなさい。なお、This is で始まる英文も1文として数えます。

【話題】 ・スポーツ ・学校 ・勉強 ・趣味



Takashi

<結果> ⑧ 正答率 50.6%

<分析>

【書くこと】については、正しい語順で英文を書く力をみる⑩のすべての問題の正答率が昨年度と同様に70%を上回っているのに対して、伝えたい内容を自分で考え、つながりを大切にしながら、まとまりのある英文を書く力をみる⑧では十分な正答率が得られていない。昨年度と比較す

ると本年度の正答率は向上傾向にあるが、無解答が比較的多い特徴がみられる。これは、「タカシ像」を自分でイメージし、紹介しようとする内容を英文にすることができなかつたと考えられる。また、誤答については、This is Takashi. に続く英文が He likes soccer. He studies English. のように話題の一貫性がない例が多くみられることから、第2学年に向けて、一つの話題について複数の英文で内容につながりのある英文を書く力を今後身に付けさせていきたい。

### 3 分析を踏まえた指導の改善

#### (1) 指導計画の工夫改善

- ・3年間を通じて、音声によるコミュニケーション能力を一層重視しながら、【読むこと】や【書くこと】の領域の指導の充実を図りたい。そのため、【読むこと】の言語活動「エ 伝言や手紙等から書き手の意向を理解し、適切に応じること。」や【書くこと】の言語活動「ウ 自分の考えや気持ち等が読み手に正しく伝わるように書くこと。」を扱う単元を、3年間を見通して計画的に設定する。
- ・年間指導計画において、各領域の課題と考えられる指導事項が適切に位置付けられているかを見直す必要がある。課題となる指導事項が、繰り返し指導され、系統的・発展的に扱われるように工夫したい。見直す手法の一つとして、各単元において重点とする言語活動の指導事項とそれに関連して行う言語活動の指導事項の一覧表を作成したい。

#### (2) 指導方法の工夫改善

- ・【書くこと】について、第1学年の段階としては、間違いを恐れずにまずたくさん書いてみる経験を積み上げさせたい。その上で、段階的に、書く内容を自分で考えて整理し、相手に伝わるように、事実関係や順序を工夫して書く力を付ける指導を考えたい。書く活動への意欲を十分に喚起し、書く内容をイメージできるよう、教科書の内容を指導した上で、さらに生徒の興味・関心に即した題材を取り上げることや、「誰に」「何のために」書くのかといった相手意識や目的意識をもたせる工夫が大切である。また、書く活動を行う際には、生徒が選択したテーマ別に学習集団を編成して少人数指導を行う等、個に応じたきめ細かな指導方法の工夫も考えたい。
- ・【聞くこと】【話すこと】の音声による言語活動において、場面や状況から相手の意向を汲み、言語形式によらないで適切に応答する力を付けることが課題である。そこで、具体的な場面や状況を設定し、例えば、Do you have a pen? という問いかけに対して、Yes, here you are. と答えながらペンを差し出す等、Yes や No のみでない応答を求める指導や、「アイデア夢ロボットコンテスト」というテーマでロボットの特徴を紹介する等の課題解決的な活動を設定し、できることを具体的に説明したり、相手の質問に適切に答えたりできるようにする指導が考えられる。また、これらは、音声を正しく認識し、語句や文の意味を正しく聞き取る力を付ける指導を継続しながら行われることが大切である。
- ・会話の流れから適切な表現を選択して応答することができる力を付けるために、【聞くこと】【話すこと】の言語活動で、例えば、I'm looking for a soccer magazine. という発話を聞いた時、場面や状況からどう対応したらよいか自分で判断し、自分の思いを短い時間で英語にすることを段階的に指導する必要がある。また、【読むこと】においても、会話の流れや文と文との内容のつながりを大切にしながら理解していく指導を工夫したい。
- ・理解の能力の【聞くこと】【読むこと】については、授業において、ある程度分量のある英文に触れさせる中で、概要・要点をつかむことを大切にしたい指導をしていくことが今後も望まれる。また、読んだことについて、その理解の程度を問うだけでなく、読んだ内容についての考えを話したり書いたりする等、読んだ英文を基盤にしながら、他領域と関連付けた指導を図りたい。

#### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・【聞くこと】については、質問や依頼等、英語で話しかけられている内容を正しく聞き取り、話し手の意図を理解して適切に応じる力を付けるために、授業において、ペアやグループ等の学習形態を工夫し、実際に英語を使って意向を伝え合う場をできるだけ多くもつことが必要である。また、生徒も教師も常に英語を使って積極的にコミュニケーションをしようとする雰囲気のある学習環境を実現することも大切である。
- ・【聞くこと】【読むこと】において、具体的な内容や大切な部分をとらえて理解する力をより伸長するために、ALT等を積極的に活用し、自然な口調で話されたり読まれたりする英語に触れる機会を今後も大切にしたい。